

6) 管理業務に付随する業務

広報業務

① さけ科学館公式ホームページの公開

さけ科学館の情報を公式ホームページから得る方が多いことから、施設の利用案内など基本情報を分かりやすく公開します。

イベント情報や秋期の河川でのサケ観察情報など、即時性を要求される内容については、SNS とも連動して広く情報提供します。

このほか、さけ科学館によるサケや淡水生物の調査結果、各種研究報告、その他教育普及用の資料など、誰でもダウンロードできる形で公開します。

近年はスマートフォンでWebサイトを利用する機会が増えていますが、さけ科学館では平成30年から、PCとスマートフォンのそれぞれで最適なレイアウトの表示となる「レスポンシブデザイン」を公式ホームページに導入し、どこからでもさけ科学館の情報に容易にアクセスできるよう配慮しています。



さけ科学館公式ホームページ (PC の表示画面)



スマホの表示画面

② SNS やメールマガジンによる情報配信

当協会では、平成 20 年に「チェッポだより」と題したメールマガジンを創刊し、毎月、さけ科学館のイベント情報やサケの情報を中心に、電子メールで配信しています。今後も利用情報を直接お届けするツールとして活用します。

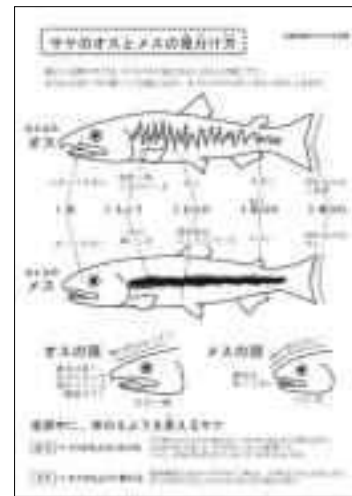
また、SNS の利用も増加していることから、フェイスブック、X (旧ツイッター)、インスタグラムの公式アカウントを設定し、さけ科学館の情報を配信しています。SWSP に掲載されるサケ情報をリツイートすることにより、さけ科学館公式ホームページ以外にも、幅広く情報を届ける手段として活用します。

③ イベントチラシの発行

紙ベースの情報提供として、イベント情報を紹介するチラシを作成し、館内配布と公式ホームページ掲載により広く発信しています。



さけ科学館イベントチラシ
令和6年7・8月号



リーフレット
サケのオスとメスの見分け方

④ 学習リーフレットの作成・配布

当協会では、サケに関する様々な知識・情報を学べるよう、A4版1枚の体裁で学習リーフレットを作成し、公式ホームページで公開しています。

今後も最新情報の更新及び提供に努めます。

〈現在公開中のリーフレット〉

- | | |
|-------------------|-----------------|
| • 豊平川のサケの歴史 | • サケの種類と商品名 札幌版 |
| • 豊平川の一年とサケ | • サケの産卵床 |
| • 豊平川に帰ってきたサケの大きさ | • サケの産卵行動 |
| • サケの一生 | • サケの産卵行動観察ガイド |
| • サケのオスとメスの見分け方 | • 札幌市内のサケ観察ガイド |
| • サケがおとなになる年齢 | • 札幌周辺に生息する淡水魚 |

⑤ 無料情報媒体の活用

さっぽろ10区、北海道じゃらん、じゃらんnetなど、掲載費用の掛からない広報誌や情報サイト等を活用し、さけ科学館のイベント情報をお知らせします。

⑥ オリジナルキャラクターの活用

幅広い年齢層の利用者に対して、さけ科学館に親しみを持っていただき、教育普及効果を高めるために、さけ科学館オリジナルのキャラクターを活用します。

サケのキャラクターである「チェッポくん」と「チェポミちゃん」は、平成16年度から公式ホームページやパンフレットなどに用いてきました。

また、平成21年度からは、釣り新聞ほっかいどうの連載等で活躍している漫画家「かじさやか」氏に作成を依頼した「リンカちゃん」と「ちびリンカ」を、さけ科学館の応援キャラクターとして使用しています。

リンカちゃん・ちびリンカは、親しみやすい女の子のキャラクターとして、ポスターやチラシ、公式ホームページ等に登場させているほか、サケの一生を紹介する絵ハガキセットや、展示解説などにも用いています。

札幌のサケや水辺の生き物について、より親しみやすく、分かりやすく紹介するために、今後もこれらのキャラクターを活用していきます。



リンカちゃん



ちびリンカとチェッポくん、チェボミちゃん

引継ぎ業務

さけ科学館の指定管理者については現在、当協会が指定を受け、施設の価値の一層の発揮、利用促進のため日々管理運営に努めており、今後も引き続き管理運営を希望しています。

しかし、今回の選定において、仮に当協会が次期指定管理者に選定されなかった場合には、さけ科学館の利用者のほか、管理運営にも深く関わっていただいているボランティア、多方面で連携・ご協力をいただいている関係機関の方々などの不便、不利益とならないよう、引継ぎに必要な情報を業務引継ぎ書等に整理した上で、新しい指定管理者、及び札幌市と協議・調整を重ね、円滑かつ適正に引継ぎが完了するよう協力します。

（6）類似業務の業績（ふ化場、水族館、博物館など）

当協会は昭和 59 年のさけ科学館開館以来、継続して管理運営を担ってきましたが、その業務内容には、ふ化場、水族館、博物館等の施設が担う種類の業務が、次のとおり本来業務として含まれています。

さけ科学館の本来業務における、他施設の類似業務

ふ化場	サケふ化放流業務（親魚収容・蓄養、採卵・収容、検卵、稚魚飼育、放流）	
	飼育用水・設備管理	水生生物の生息状況等調査
	河川のサケ調査	記録整理・調査研究報告
	特別採捕許可手続	体験プログラム（採卵、放流）
水族館	サケ生体展示	水生生物飼育展示
	サケ科魚類継代飼育展示	飼育・繁殖技術の研究
	外来種の飼育展示・啓発	飼育設備の管理
	生物採集	飼育相談受付
	水槽展示の管理	
	体験プログラム（エサやり、エサ販売）	
博物館	資料の展示・更新	資料の収集・収蔵・保管
	普及資料の作成・配布	展示の解説案内
	図書・資料の配架・貸出	地域の自然情報の発信
	学校教育のサポート	学術研究への貢献
	特別展の企画・開催	
	体験学習プログラム（魚とり、サケ観察等）	

上記の本来業務以外に、外部からの依頼を受けて実施する類似業務については、積極的にこれを受け入れ、対応してきました。また、それら依頼への対応によって得られた知見・経験等は、さけ科学館の教育普及資料の充実や管理技術等の向上に活用し、本来業務のレベルアップと利用者のサービス向上につなげてきました。

ここでは、外部からの依頼による類似業務の具体例として、これまでの重要な取組と、最近の主な実績について、いくつかの事例を紹介します。

1) ふ化場類似業務（飼育、調査・研究等）**大学や研究機関等との共同研究・研究協力**

さけ科学館は、サケを含めた地域の水辺生物に関する豊富な知見や調査技能を有し、また多種の飼育生物を保有していることなどから、大学や研究機関などから共同研究や研究への協力の依頼が多く寄せられます。大学や研究機関との連携については P.93 の表に近年の主な実績を記載しましたが、今後も対応可能な範囲でこれらの依頼に協力していきます。

また、調査研究により得られた成果は、さけ科学館研究報告で公開するほか、日本生態学会、応用生態工学会、北海道自然史研究会、北海道魚類系統研究会などの関係する学会等で発表し、専門家から意見等をいただき、次の研究に役立ててきました。引き続き研究成果の公表と豊平川のサケに関わる研究の発展に尽力していきます。

豊平川流域の保全

大都市札幌の中央部を流下する豊平川では、市民の生命と財産を守るため、治水対策が進められてきました。その一環として、上流域に巨大な多目的ダムや多数の砂防堰堤が設置されましたが、そのことによる弊害として、中流域では著しい河床低下のほか、河川流路の固定化による河岸の陸地化・樹林化の進行がみられ、河川生態系保全と河道断面確保の面から大きな問題となっており、河川管理者を悩ませています。

当協会は、河川事務所からの要請を受けて、豊平川河畔林勉強会や豊平川河道掘削意見交換会に出席し、流域全体を視野に豊平川のあり方を他分野の研究者と共に考え、取り組んでいます。また、豊平川全体の流域保全のための調査研究を、北海道大学、寒地土研、資源研などと連携して行っています。

さらに、札幌市下水道河川局からの要請を受けて、札幌市河川環境推進会議に河川生態系や環境教育の有識者委員として参加し、よりよい河川環境を保全・創出するための川づくりが行えているかの検証に協力しています。

今後も関係機関と連携し、当協会で蓄積した調査記録を活用するなど、豊平川流域の保全に寄与します。

2) 水族館類似業務

展示用・繁殖用の水生生物の提供・貸出

北海道内でサケ科魚類を継代飼育している水族館との間では、種の保存のためにサケ科の魚種を相互供与しています。さけ科学館の展示魚の維持のためにも、引き続き連携を図ります。

《最近のさけ科学館からの提供・貸出先》

- ・ 標津サーモン科学館（標津町）
- ・ サケのふるさと 千歳水族館（千歳市）
- ・ サンピアザ水族館（札幌市）

水生生物採集の協力

さけ科学館では専門性の高い職員を配置し、札幌市内の水生生物のモニタリング調査を実施しています。北海道内の水族館の連携の一環として、さけ科学館のスキルを活用した水生生物採集への協力依頼がある際には、本来業務に支障をきたさない範囲で協力します。

《最近の協力実績》

- ・ おたる水族館（トウヨシノボリ、シマウキゴリ、フクドジョウ等の採集）

3) 博物館類似業務

北海道の博物館ネットワークへの参加

社会環境の変化とともに、博物館をとりまく状況も大きく変化しています。当協会は北海道博物館協会に加盟し、道央地区博物館等連絡協議会や学芸職員部会を通し、北海道内の博物館施設との情報共有や連携を図っています。

また、当協会の学芸員は、自然史系学芸員を中心に北海道内の自然史に関するネットワークを作る北海道自然史研究会に参加し、さけ科学館における調査研究を研究大会等で発表します。

学芸員資格取得を目指す博物館実習生の受け入れ

さけ科学館は、博物館法では規定されない「博物館類似施設」に区分されますが、大学からの依頼に応じて、学芸員資格の取得を目指す学生を実習生として毎年受け入れてきました。

今後も文部科学省の「博物館実習ガイドライン」に沿って、飼育管理、調査研究、教育普及など、博物館施設としての仕事を体験するプログラムを毎回作成し、希望に合わせ、年間数回に分けて受け入れる予定です。

このほか、中学校や高校、大学等から、職場体験やインターンシップとして、生徒・学生の受け入れ依頼があります。公共施設として地域と社会に貢献するために、可能な限り受け入れます。

《博物館実習の受け入れ実績》

- ・ 令和2年度：3大学 5名、計28日間
- ・ 令和3年度：1大学 1名、計12日間
- ・ 令和4年度：3大学 6名、計48日間
- ・ 令和5年度：5大学 7名、計50日間

未来の研究者の育成

さけ科学館では、将来の研究者を目指す高校生や大学生から相談を受けることが多々あります。助言などのサポートを行うことにより、研究の楽しさを伝え、生物や環境に関心を持つ学生・生徒を支援し、次世代を担う研究者の育成に貢献していきます。

当協会では今後も、これらふ化場、水族館、博物館などの類似施設が担う種類の業務を、さけ科学館に求められる業務として適切に実施していくほか、各方面からの要請に応じてこれらの機能・役割を果たすことにより、本来業務の一層の充実へと反映させていきます。

5 利用者サービス等に関する取組

(1) 利用促進計画

札幌市豊平川さけ科学館の課題を踏まえ、利用者サービスを含め、市民の施設利用を促進するための基本的な方針、当該方針に基づく具体的な業務計画の実施要領を示してください。

(2) 自主事業への取組

利用者サービスの向上に向けた自主事業の取組について、取組の基本的な考え方と取組の具体的な内容を示して下さい。

(3) 施設の魅力等の把握及び魅力等の向上

当該公園の魅力や特性について記載した上で、それらをさらに高めるような自主事業等の取組について具体的な内容を示して下さい（取組内容は（2）との重複可）。

5 利用者サービス等に関する取組

(1) 利用促進計画

1) 利用者サービスの基本的な方針

私たちは、当協会が運営方針とする公益性「6つのK（公平・公開・効率・協働・環境・景観）」をベースとして、公の施設を管理するスタッフが「全体の奉仕者」であることの自覚と使命感を持つとともに、一人ひとりの知識と技術を高め、次の観点を基本方針として利用者サービスの向上を図ります。

① コンプライアンス

さけ科学館の管理運営に必要な関係法令を遵守し、公正な管理運営を行います。

② 利用者の平等・公平性の確保

- a さけ科学館の管理に当たっては、平等で公平な利用を尊重するとともに、誰もが等しく受益できるユニバーサルサービスを推進します。
- b 誰でも気軽に利用できるよう、幅広く公平に情報を発信します。

③ 安全・安心な利用の確保

- a さけ科学館を適切に維持管理し、来館者の安全と安心を確保します。
- b 安全・安心な利用のため、巡回や案内など、適切な運営を行います。
- c 危険箇所の早期発見に努め、利用規制、立入規制など、適切に対応します。
- d 真駒内公園と連携して、防犯と防災対策を確実にを行います。

④ お客様満足度の向上

- a お客様からの意見等を管理運営に反映させ、満足度を向上させます。
- b 情報公開を積極的に行い、説明責任を果たします。
- c 市民参加・協働を推進し、地域との連携を強め、地域活性化に貢献します。

⑤ 快適性の確保

- a 動物福祉に配慮し、飼育生物を適正に飼育管理し、良好な状態で展示します。
- b 定期的な施設の保守点検、効果的な清掃等により快適な利用をサポートします。

⑥ 人材育成とホスピタリティの向上

接遇研修等によりスタッフの資質向上に努め、サービス向上につなげます。

⑦ 設置目的、利用特性等の最大限の発揮

- a さけ科学館の設置目的、札幌市との協定に沿った管理運営を実践します。
- b 貴重な公共の財産として、将来を見通した管理運営を行います。

⑧ 定期的な見直しと改善

年度ごとに管理運営・実施事業等について検証を行い、改善につなげます。

2) 基本方針に基づく業務の実施について

公共施設であるさけ科学館における各種の業務は、上記の利用者サービスに係る基本方針を踏まえた実施が必要不可欠となります。

当協会では、さけ科学館を利用される方の満足度を高めることで施設の利用促進につながるよう、常に改善を図りつつ各業務を遂行します。

(2) 自主事業への取組

当協会はさけ科学館において、利用者の便宜を図り、また得られた収益をよりよい施設管理のために利用できるよう、次のとおり自主事業を提案します。

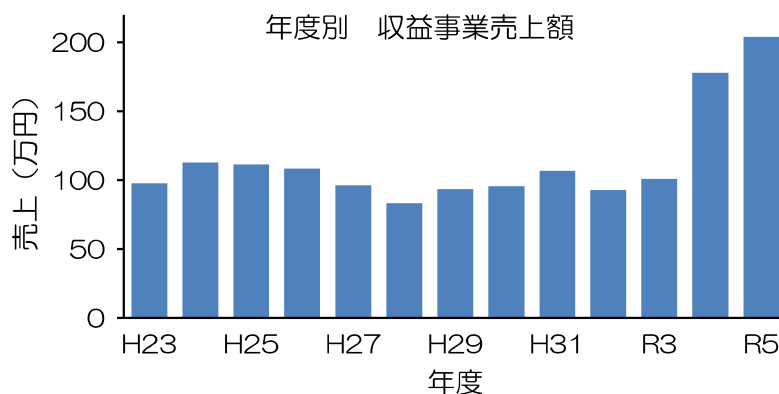
自主事業の実施に際しても、当協会が運営方針に掲げる6つのK（公平・公開・効率・協働・環境・景観）を念頭におき、冒頭に示した事業目標と上記の考えを反映させ、利用者サービスを第一に考えて事業を展開します。

売店の運営

さけ科学館来館者の記念となるグッズや、体験用のエサ、学習用の書籍等を中心に販売します。ここ数年は商品のバリエーションを増やして売上を伸ばしています。

＜主な販売品＞

- ・魚グッズ（タオル、ポーチ、キーホルダー等）
- ・エサやり体験用のエサ
- ・生物フィギュア入りカプセル（通称ガチャボン）



売店の運営					
実施時期/回数	通年		対象	来館者、真駒内公園利用者	
年次目標	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
収入予定金額	2,021,000 円	2,021,000 円	2,021,000 円	2,021,000 円	2,021,000 円
支出予定金額	947,000 円	947,000 円	947,000 円	947,000 円	947,000 円
収支予算	1,074,000 円	1,074,000 円	1,074,000 円	1,074,000 円	1,074,000 円

自動販売機の設置

さけ科学館来館者の利便に資する目的で、清涼飲料水及びアイスクリームの自動販売機を各 1 台、本館玄関内に設置します。このほか春から秋には、本館横の屋外に清涼飲料水の販売機を 1 台設置します。



自動販売機の設置					
実施時期/回数	通年		対象	来館者、真駒内公園利用者	
年次目標	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
収入予定金額	300,000 円	300,000 円	300,000 円	300,000 円	300,000 円
支出予定金額	130,000 円	130,000 円	130,000 円	130,000 円	130,000 円
収支予算	170,000 円	170,000 円	170,000 円	170,000 円	170,000 円

移動販売車等の臨時販売

体験放流やさっぽろサケフェスタなどの大型イベントのほか、来場者数が多い日に、来場者へのサービス提供として、飲食物、野菜、環境雑貨等を販売します。

<販売品目例>

- ・飲食物（移動販売車含む）
- ・野菜
- ・雑貨
- ・自然活動系団体出展物（工作体験キット、書籍等）

移動販売車等					
実施時期/回数	通年		対象	来場者、真駒内公園利用者	
年次目標	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
収入予定金額	90,000 円	90,000 円	90,000 円	90,000 円	90,000 円
支出予定金額	70,000 円	70,000 円	70,000 円	70,000 円	70,000 円
収支予算	20,000 円	20,000 円	20,000 円	20,000 円	20,000 円

(3) さけ科学館の魅力等の把握及び向上

1) さけ科学館の特性と魅力について

さけ科学館には、市民によるサケの保全活動の先駆けであったカムバックサーモン運動の成果を受けて設置されたという歴史があります。豊平川のサケの調査は世界的にも先進的で、一つの施設（組織）で長期的なモニタリングが行われている事例は、国内でも稀です。さけ科学館の長期的なモニタリングを受けて、豊平川のサケの保全活動は稚魚放流から自然産卵による野生サケの保全に転換し、さけ科学館が牽引するSWSPの動向が全国のサケの保全活動の道しるべとなっています。

また、さけ科学館は水辺の生態系に詳しい専門家が在籍する施設として、興味・関心がある市民や学校教育などへの普及活動に積極的に取り組み、高い評価を受けています。

さらに、札幌には、開発によって絶滅の危機に瀕する希少種の個体群や、在来種に悪影響を及ぼす外来種など、早急に対応すべき課題が数多くあります。さけ科学館は、札幌の水辺環境や生物多様性の保全に取り組むための基幹施設として、重要性はますます高まり、なくてはならない存在となっています。

2) 特性を生かし、役割を担うための具体的内容

当協会は、昭和 59 年のさけ科学館開館当初から継続して管理運営を担っており、専門家を配置することにより、「環境首都・札幌」にふさわしい水辺環境の保全のために貢献してきました。豊平川のサケの今後目指すべき姿、札幌の水辺生態系の価値と環境保全の課題などについて、調査研究と最新の知見を踏まえた適切な取組、提言等を今後も実施していきます。

豊平川のサケ保全活動の牽引

豊平川では、現在、野生のサケを保全する先駆的な取組が進められています。さけ科学館では SWSP と連携し、毎年の親魚遡上数に応じて稚魚の放流数を変動させる「順応的管理」を平成 28 年の放流から導入しました。現在のところ、放流数を減らしても遡上数は減っていませんが、野生魚の割合を大きく増やすためには、豊平川の産卵環境の改善が重要となっています。

そこで、河川管理者である河川事務所と連携して、平成 27 年からサケの産卵環境改善の取組を開始し、自然産卵の生存率の向上に貢献しています。今後、豊平川の河川整備計画の中で環境目標の数値化が全国に先駆けて検討されており、さけ科学館を中心としてサケの保全活動が長年続けられてきた成果だと考えます。

一方で、市民やさけ科学館により続けられてきた放流活動は、野生魚を増やす取組にシフトした現状においてはサケの保全につながらないことから、過渡期を迎えています。今後の放流事業のあり方や豊平川のサケの目指す姿を模索し、市民との合意形成を進めていきます。

当協会はさけ科学館を SWSP 事務局として、これからも活動を牽引していきます。

札幌の水辺の環境保全への寄与

札幌の水辺における生態系は、外来種の侵入や人為的な開発などにより、様々なダメージを受けています。当協会はさけ科学館において、市民への教育普及活動や調査研究を背景とした河川行政への助言を次の通り実施し、札幌の水辺環境の保全に寄与します。

《外来種への対応》

近年、札幌では、特定外来生物のウチダザリガニや国内外来種のアズマヒキガエルの分布が広がっています。また、身近な生き物であるアメリカザリガニやミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）は令和5年6月に新たに条件付特定外来生物に指定され、水辺の環境や在来の生物に及ぼす影響への懸念が高まっています。

外来種の対策は、初動対応が早いほど大きな効果があるため、札幌市内の自然環境への知見が豊富なさけ科学館が初期段階から協力することにより、効果的な防除につながります。当協会では、札幌市の環境共生担当課、北海道大学、環境省、かんガエル等と連携し、分布調査及び防除活動への協力を行います。

さけ科学館は水辺の環境教育施設としての認知度が高いことを活用して、外来種の生体展示を行うほか、イベント等で積極的に外来種の普及啓発活動に取り組むことで、外来種の拡散防止につなげる役割も担います。

《札幌市、北海道、国への助言や情報提供》

札幌市内の河川は、治水・利水を目的としたダムが多数設置されるなど、都市の発展とともに改変が進みました。また、平成9年の河川法改正で、河川環境の整備と保全が目的に加わったことを受けて、現在では魚類等に配慮した管理が求められています。

この状況を受けて、札幌市内の広い範囲でサケや水生生物の調査を継続的に実施してきたさけ科学館に対して、河川行政から情報提供の依頼や相談が多数寄せられています。

河川に限らず、水辺環境における生物多様性や環境の保全、水生生物等に関して、札幌市の環境共生担当課や円山動物園、水道局、土木部のほか、道立総合研究機構、環境省などの幅広い行政機関から、さけ科学館が保有する知見に基づいた専門家の意見を求められます。

さけ科学館は、このような行政機関と積極的に連携・協力し、札幌の水辺環境を守る中心となる施設としての価値を高め、札幌の生物多様性保全につなげていきます。

開かれた施設管理と活動の推進

市民にとって身近な水辺の専門施設であるさけ科学館には、気軽に問い合わせができる雰囲気づくりと、学校教育などに活用できるカリキュラムづくりが求められます。

《地域の自然史博物館としての役割》

札幌市内で水辺の生物や環境を専門とする施設は、さけ科学館が唯一です。身近な川の生きものや外来種について、自由研究の相談など、市民の疑問やニーズに応えるため、窓口で随時対応しています。また、お問い合わせフォーム経由で寄せられる「魚の種類」や「サケの語源」など、様々な質問にも対応しています。さけ科学館で解決できない質問には、連携する研究機関に協力を仰ぐなど、誠実で質の高い回答を行います。

《地域の学校教育への協力（出前授業、見学受け入れ、観察会対応等）》

近年、総合的な学習等で、川やサケをテーマとして取り組む学校が多数あります。当協会では、学校への出前授業や施設見学の受け入れ、サケや川魚の観察会、採卵実習、解剖実習など、学校のニーズに合わせてきめ細やかに対応することで、地域の環境教育の充実に寄与します。

専門的知見を活かした事業の促進

当協会では、河川生態学・環境保全・環境教育に高い専門性を持つ学芸員と、栽培漁業学や魚類学を専攻し、豊かな経験を持つ職員をさけ科学館に配置し、市内の河川生態系の調査研究を行っています。これらの専門的知見を生かし、札幌における環境保全の取組が促進されるよう、次の対応を行います。

《エコツーリズムのインバウンド対応》

コロナ後に拡大している海外からの団体の中には、川やサケ、野生動物などをキーワードとしたエコツーリズムへの要望があり、希望があれば職員による英語での解説も行っています。また、令和 5 年度に国際団体が主催した「アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道」で、サケをテーマにしたツアーが複数企画され、さけ科学館でその対応を受けました。ツアーでの豊平川のサケ保全活動の解説は、海外の方から好評が得られました。

今後も大都市の川で野生のサケが産卵する世界的にも稀な自然環境が札幌にあることを PR し、環境保全に関心が高いインバウンドの満足度を高めることに貢献します。

《民間企業による環境保全活動への支援》

近年、民間企業は持続可能な社会の実現のため、様々な責任や役割を担うことが求められており、生物多様性保全に寄与するための方法や課題について、さけ科学館が企業から相談を受ける機会が増えています。札幌における環境問題の現状や、今後対処すべき課題等の情報を提供することにより、企業による札幌の生物多様性保全活動の促進に寄与します。

6 管理業務に付随する業務（施設ホームページのウェブアクセシビリティ確保）について

施設ホームページのウェブアクセシビリティを確保（日本工業規格 JIS X 8341-3：2016 の適合レベル AA に準拠）するための取組について、以下の項目の内容を示してください。

【既存のサイトを継続して使用する場合】

①適合レベル AA 準拠を達成するための作業スケジュール（現時点で AA 準拠を達成している場合はその維持・向上に向けた取組スケジュール） ②新規ページ作成・ページ修正時におけるアクセシビリティ確保の方策 ③試験実施予定時期及び方法 ④アクセシビリティ維持・向上の取組（職員研修・利用者からの意見収集等） ⑤ウェブアクセシビリティの問題が発生した場合における対応方法等 ⑥過去のウェブアクセシビリティ対応実績

6 管理業務に付随する業務（施設ホームページのウェブアクセシビリティ確保）について

（１）既存サイトの継続使用によるアクセシビリティ確保

当協会では、現在公開しているさけ科学館のホームページを引き続き改善しながら運用するとともに、次のとおりウェブアクセシビリティの確保に努めます。

① 既に達成済みの適合レベル AA 準拠の維持・向上に向けた取組スケジュール

さけ科学館のホームページについては、令和 2 年度に試験を行い、日本工業規格 JIS X 8341-3：2016 の適合レベル AA に準拠しています。

今後のウェブアクセシビリティの維持・向上の取組としては、毎年4月に担当職員を対象としたアクセシビリティ講習を行うほか、「NPO 法人手と手」や「NPO 法人プリズム さっぽろ」等の福祉団体に年1回のチェックを依頼し、意見・助言をいただき対応します。

② 新規ページ作成・ページ修正時におけるアクセシビリティ確保の方策

ページの新規作成時や修正時には、当協会で作成した「アクセシビリティマニュアル」に基づき適切に対応します。

③ 試験実施予定時期及び方法

既に公開しているホームページは試験実施済みですが、ホームページのリニューアルや JIS 規格の変更があった場合は、速やかに JIS X 8341-3：2016「附属書 JB（参考）試験方法」に基づいた試験を行い、結果を公開します。

④ アクセシビリティ維持・向上の取組（職員研修・利用者からの意見収集等）

上記①に示した担当職員へのアクセシビリティ講習や福祉団体からの意見聴取のほか、一般の利用者からもホームページのフォーム経由などで意見をいただけるよう案内します。

⑤ ウェブアクセシビリティの問題が発生した場合における対応方法等

ウェブアクセシビリティに関わる問題が発生した場合には、担当者を決めて情報を集約し、専門業者と連携を取って解決に向けた対応を迅速に実施します。また、他公園、他ドメインにおいて同様の問題発生のおそれがある場合には、前もって対処します。

⑥ 過去のウェブアクセシビリティ対応実績

ウェブアクセシビリティ対応の実績としては、さけ科学館をはじめ、当協会が管理運営する札幌市指定管理施設のすべてのホームページ、及び当協会のホームページにおいて、既に日本工業規格 JIS X 8341-3：2016 の適合レベル AA に準拠しています。

7 札幌市の他の施策に関する取組

札幌市の他の施策に寄与する事業内容について、具体的な取組を示してください。

7 札幌市の他の施策に関する取組

(1) 札幌市の他の施策に関する取組実績と今後の対応

当協会ではこれまで、さけ科学館の本来業務以外に、札幌市の他の部局からの依頼等を受けて様々な協力をしてきています。最近の実績をここに示すとともに、今後も新たな依頼等を含め、引き続き可能な範囲で札幌市の他の施策に協力、寄与していきます。

札幌市の他の施策に関する主な取組の実績

依頼元	協力内容
学校 (本来業務以外)	みなみの杜高等支援学校・中沼支援学校・北海道札幌高等養護学校の活動への協力 札幌市環境副教材開発への協力 インターンシップ・職場体験の受け入れ
環境局 環境共生担当課ほか	外来種の調査・防除活動への協力（ウチダザリガニ、アズマヒキガエル） 生物多様性さっぽろビジョンの生物目録（魚類）点検 生物多様性さっぽろビジョン・ワークショップの講演対応 札幌市環境審議会生物多様性部会の委員就任
環境局 円山動物園	「ニホンザリガニ円山会議」の講師対応 「サイエン ZOO～動物園科学の日～」への協力 「サケ・サイエンスターリング」への協力 繁殖を目指すシマフクロウのために活魚の提供
下水道河川局 河川事業課ほか	札幌市河川環境推進会議の委員就任 いきもの観察会の講師対応（鴨々川、山部川） 河川事業課環境整備への協力（サクシュコトニ川、創成川） 札幌市河川環境整備計画検討業務に係る委員就任 札幌市管理河川の生物相・河川環境のヒアリング対応
水道局	バイオアッセイ装置による水質チェックのためのヤマメ活魚の提供 工事に伴う河川環境の情報提供
広報課	広報さっぽろ生物多様性特集記事への協力
経済観光局	「アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道」のツアー案内対応
南区	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート事業への参加協力
札幌市施設 出資団体等	札幌市下水道科学館 イベント協力 札幌市生涯学習センター さっぽろ市民力レッジの講師対応 札幌市環境プラザ こどもエコクラブ・サケ観察会の講師対応 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会 「川であそぼう」への講師派遣

8 札幌市内の企業等の活用について

(1) 活用についての考え方

当協会では、物品の購入、また外部への委託等については、次に示す理由により、札幌市内の企業・団体を優先的に活用しています。

1) 札幌市内の企業・団体を活用する理由

- ・ 地域経済の発展に寄与するため
- ・ 優秀な技術、商品等をいち早く入手するため
- ・ 地域の高品質な技術や優良製品等が市民の目に留まる機会となるため
- ・ 商品等の輸送時に排出される CO₂ の抑制に貢献するため

さけ科学館の管理においては今後も引き続き、上記理由に基づき、次の事項を優先して適切な市内企業を選定し、活用していきます。

2) 札幌市内の企業・団体の中での優先事項

- ・ 福祉施策に積極的に取り組んでいる企業、福祉施設・団体等が生産する物品等の調達
- ・ 環境に配慮した商品や技術を有している企業
- ・ 地域の風土、素材、デザイン、特産等を生かした札幌らしい商品・サービス等

(2) 活用に向けた具体的な取組

当協会では、さけ科学館において上記の理由及び優先事項に適合する札幌市内の企業や商品等を適切に選定するために、次のとおり取り組みます。

- ① 当協会で管理する公園・施設間の情報を共有して、事業者のコンプライアンス・信用力、業務の体制や実績等を総合的に見極めて企業を選定するよう努めます。
- ② 商品の適正価格、品質、サービスの柔軟性等の要素についてよく検討し、管理経費の節減と適切な業務遂行に相応しいものを選びます。
- ③ 新聞、テレビ、インターネット、情報誌等により、札幌市内の企業や商品等の積極的な情報収集に努め、積極的な活用につなげます。
- ④ 札幌市中小企業振興条例の理念に則り、中小企業や個人経営者の受注機会を増やし、地域の商店などの活性化に努めます。
- ⑤ 「令和 6 年度札幌市障害者就労施設等からの物品等の調達方針」の趣旨を理解し、障害者就労施設等からの物品・販売商品等の調達や業務の委託などの継続・拡大に努めます。

9 その他

札幌市豊平川さけ科学館の管理運営について、提案したいことがあれば自由に提案してください。

【例】・適正な業務執行（個人情報の適正な取扱いや円滑な引継ぎ等）

・企画の実施（北海道みんなの日、防災の日などの記念日を活用した企画等） など

9 その他（さけ科学館の管理運営に関する提案事項）

（１）適正な業務執行について

１）個人情報の適正な取扱いについて

さけ科学館の管理運営において取り扱う可能性のある個人情報（特定の個人を識別できる情報）については、次のものがあります。

- ・体験実習等の参加者情報
- ・施設見学・解説案内等の利用者情報
- ・公園ボランティアの登録者情報
- ・図書貸出に係る登録者情報
- ・さけ科学館での拾得物に係る個人情報
- ・苦情・要望等に係る個人情報
- ・施設等での事故における当事者情報

このほか、謝金等をお支払いする講師等の情報については、マイナンバーを含む特定個人情報に該当します。

これら個人情報の取得、利用、保管、開示、廃棄等の際には、当協会で定めている個人情報保護要綱、及び特定個人情報保護要綱に則り、適法かつ適正に取り扱います。

また、個人情報を取り扱うスタッフを対象に個人情報保護研修を実施し、適正な取扱い体制を確保します。

（２）さけ科学館の飼育展示、施設等についての提案

１）飼育池の日除け設備の設置

展示施設としての飼育池は、本館の地下かんさつ室から観察窓（アクリルガラス）越しに水中の魚を観察する構造になっています。池の上部は開放された屋外で、晴れた日の午前中は直射日光がガラス面に当たり、地下かんさつ室から魚が見えにくい状態になります。



地下かんさつ室から見た飼育池



飼育池の地上部（管理エリア）
エサやりイベントの時のみ、参加者が入る

そこで、明るさを確保しつつ直射日光をさえぎるための構造物として、半透明の屋根を飼育池エリア上部に設置することを提案します。池の上部と、隣接する管理エリアを屋根でカバーすることにより、時間帯に関わらず魚が観察しやすくなるほか、毎日行っている糞の吸

出し等の飼育管理作業の効率化や、飼育池でのエサやり等のイベントも天候に関わらず快適に開催できることなどが期待されます。

2) ろ過槽の機能改善

さけ科学館のろ過室内に設置されているろ過槽（砂ろ過式）では、飼育池や屋外かんさつ池で使用した飼育水をろ過して再使用していますが、使用・管理の中でろ過槽内の「ろ材」が減ってきています。

そのため、ろ過機能の低下のほか、ろ過槽内の下方に設置されているろ過後の水の取水口（穴開きの塩ビ管）がろ材の上に出てきてしまい、毎日の逆洗（ぎゃくせん、ろ材の洗浄のために水を逆方向に流す作業）において、穴からろ材が流れ出してさらに減ってしまう、という悪循環が生じています。この状態を元に戻すには、ろ過槽を停止して内部のろ材をすべて取り出し、塩ビ管を再設置してからろ材を元に戻すという作業が必要となり、本来不要な作業が飼育管理の負担となっています。

ろ材は使用に伴い減っていく消耗品のため、定期的な補充が必要と認識しています。現状を改善し、本来のろ過能力を維持するため、定期的に十分な量のろ材の追加、又は物理ろ過と生物ろ過の機能を分離した方式のろ過槽への更新を提案します。



上から見たろ過槽の内部
ろ過後の水の取水口となる穴開きの塩ビ管 2 本（赤矢印）がろ材の上方に露出している

3) 有機フッ素化合物（PFAS）の検査実施

PFAS（ピーファス）とは、有機フッ素化合物の一部についての総称で、自然界で分解されにくく、ヒトを含む生物の体内に入ると長期間にわたって蓄積されやすい有害な化学物質です。

これらの物質が仮にさけ科学館の飼育水（地下水）に含まれていた場合、飼育魚自体の健康や繁殖への影響が懸念されるだけでなく、飼育水に触れるさけ科学館職員などヒトへの影響のほか、飼育水の排水により、真駒内川や豊平川の河川生態系に影響を及ぼすおそれも考えられます。

リスクを適切に評価し、対策を講じるためにも、さけ科学館の飼育水について PFAS の検査を実施することを提案します。

4) 真駒内川に接続するさけ科学館放水路の改修

さけ科学館の飼育水を最終的に河川に排水するための放水路は、真駒内川の河川敷地内にあります。河川に接続する水路の最下流部は、稚魚放流のイベントにも使えるよう、スロープの通路と並行して流下し、水位確保のための多数の堰を備えた構造となっています。

この水路の出口周辺には、さけ科学館で飼育し、放流したサケの一部が成魚となって遡上し、産卵が集中することがこれまでに確認されています。

そこで、この水路を改修し、サケ放流魚を水路内で産卵させることを提案します。

まず、水路内の堰の上部を現状の平らな形状から、V字型のスリットを入れるなどの変更によって、越流部の流水断面が確保され、親ザケが水路に遡上しやすくなります。

また、水路の幅を拡げ、底に礫を敷くことで水路内でのサケの産卵が期待できます。

サケ放流魚が水路内で産卵することにより、来館者がサケの産卵を容易に観察できる機会を増やすことのほか、野生サケの自然産卵に放流サケが参加することの悪影響を低減する効果も考えられます。



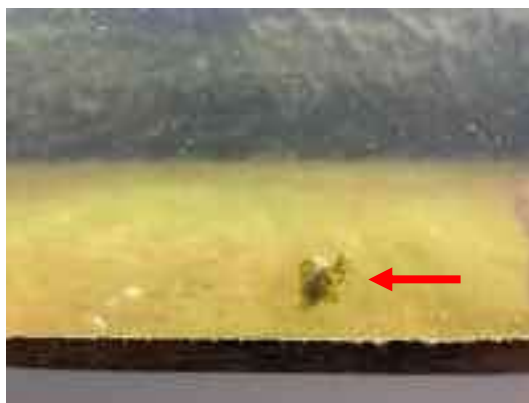
水路の堰の越流部（赤破線内）
現在は水路幅全体に水が流れているため
小型の魚類しか水路内を移動できない

5) 地下かんさつ室の観察窓の補修

地下かんさつ室にある飼育池の観察窓はアクリル製ですが、長年の利用や経年劣化により、表面の傷やひび割れ、破損箇所が目立ち、快適な観覧への影響や大きな破損につながるリスクが懸念される状況です。そのため、このアクリル製観察窓について、必要箇所の補修と全体の傷を消すための磨き処理を実施することを提案します。



観察窓表面のひび割れ



深い傷

6) 本館地下かんさつ室のバリアフリー化

本館の地下かんさつ室は、大きく育ったサケの仲間や、季節によって親ザケやサケ稚魚の群泳など、見ごたえのある魚の展示で人気のコーナーです。しかし、地下かんさつ室に行くためには階段を通る必要があるため、車いすの方や足の悪い方が観覧できない状況が開館以来続いています。

地下かんさつ室をバリアフリー化するためには大規模な改修が必要と思われますが、誰もが利用できる公共施設に必要なこととして、対応を検討いただくことを提案します。



地下かんさつ室への階段（本館 1 階から）



本館 1 階への階段（地下かんさつ室から）